

刺さない鍼ブラジルへ

東方鍼灸(しんきゅう)院(帯広市大通南21)の吉川正子院長が実践する「刺さない鍼(はり)」を、2年前に同院で研修を積んだ吉原多美江さん(66)がブラジルで広めようとしている。吉原さんは「鍼灸を通じて日本とブラジルの懸け橋になりたい」と語る。

12年に南部クリチバで開院



吉原多美江さん

吉原さんは1948年、福岡県生まれ。大阪外語大でスペイン語を学び、通訳やキャビンアテンダントなどを経て、30年以上にわたってブラジルの日系商社でコンサルタントなどを務める。その傍ら、2006年に同国の鍼灸師資格を取得、12年から同国南部クリチバで鍼灸院を営む。

吉川院長が提唱する「陰陽院」で研修した。同院でその効



陰陽太極鍼 東洋医学の「陰陽」の概念を基礎にした鍼灸。症状が出ている部位に対して、陰陽の考え方で左右・上下・表裏などが対照にあるツボを刺激し、陰陽のバランスを整えることで改善を図る。数々の鍼や植物の種類を皮膚に貼り付けるなどだけでなくツボを刺激するため、「刺さない鍼」として注目が高まっている。

東方鍼灸院(帯広)で学んだ吉原さん



吉原さんがポルトガル語に翻訳した「陰陽太極鍼」の冊子を手にする吉川院長

果を目の当たりにした吉原さんは「刺さない鍼が世界的に普及するのは時間の問題」と確信したという。

吉原さんは今年に入って、吉川院長が陰陽太極鍼についてまとめた文献をポルトガル語に翻訳した小冊子を発行。同国の鍼灸学校の学生などを対象にセミナーも開いている。「セミナー参加者はものすごく感激している。プームになるのは間違いない」と話す。吉原さんがそう断言する背景には、ブラジルならではの事情がある。吉原さんによると、同国では鍼灸の人気は高

いが、太い鍼を刺す中国鍼が中心で、「痛い、怖い」というイメージがある。また、鍼を刺す行為を独占しようとする西洋医学界とのあつれきもあるという。吉原さんは「患者も鍼灸師も、刺さない鍼を求めている」と話す。

陰陽太極鍼は日本国内よりも本場中国も含め世界的な注目が先行しているのが現状。吉原さんは「日本発祥のものが世界で流行した後に逆輸入される例は多い。陰陽太極鍼もブラジルからその流れをつくれれば」と意気込む。吉川院長も「日本人は現代医学の頭になっていて、なかなか陰陽の頭に切り換えられない。海外の方が素直に受け入れられる」と期待している。

(丹羽恭太)